

登壇者からの提案まとめ

全6回のSWY WAVEの配信の中で、事業に参加した経験をもとに登壇者からさまざまな意見が提案された。その一部を引用し、下記にまとめる。

オンラインでつながれる時代に、船による国際交流の価値の再考

「世界青年の船」事業への参加を通して、自分とは異なる文化背景を持つ相手とどう接するかを学ぶことができた。また、英語が流暢ではなくとも、コミュニケーションや相手が伝えたいことを理解する多くの方法があることを発見した。また、事業を通して、あらゆる型のリーダーシップの在り方を目の当たりにし、リーダーとしての柔軟性を磨くことができた。オンラインで遠くの人とコミュニケーションができるようになつたが、こうした交流では人的要素が抜け落ちてしまうため、オンラインではなく、リアルな国際交流が続けられるべき。

SWY WAVE #1 アジア・大洋州 基調講演より

船の上というのは、すべてから隔絶された環境。もし陸であれば、インターネットを使うこともできるし、逃げる場所もある。しかし、インターネットも繋がらない海の上では、人との交流から逃れることができない。コミュニケーションスキルを磨くのにはとても良い方法である。

SWY WAVE #2 南米 エピソートトーク・セッションより

オンラインで教えられることはたくさんあり、グローバルなコミュニティにアクセスできるという利点もあると感じる。しかし、オンライン授業では、人と人との交流が希薄になつてしまふ。「世界青年の船」事業では、実際に交流し、体験から学ぶという非常にユニークな経験をすることができるが、オンラインではそこまで踏み込んだコミュニケーションに達することはできない。やはり対面で学ぶべきことは多くあるし、特にこの事業で得られる経験は、大学の講義やオンライン授業では再現できないものばかりである。

SWY WAVE #6 北米・中米 基調講演より

優秀な人材の確保と参加国の中出し

日本参加青年選考における競争率を上げるためのより強い広報発信が必要だと感じる。多くの応募者の中から優秀な人材を選ぶことで、より質の高い日本代表青年を確保することができる。もしも外国参加青年の人数を増やすことも有効。例えば日本以外の参加国からの参加人数を1か国につき現在の12名から20名に増やすことで、他の代表団との人数のバランスも良くなる。もう一つ提案したいのは、日本以外の参加国は、どの国が呼ばれるのかという見込みをもう少し早く告知してほしいという点。各国での参加青年の選考や事業の広報を担う者として、自國が次回はいつ事業に参加することができるのかを知っておくことで、それに応じた計画を立てて動くことができる。例年7月ごろに正式な参加国が確定し、そこから選考が始まるが、その時期はペルーは学校が冬休みに入っていることもあり、短い期間では高い競争率を保つことができない。最低でも1年、できれば2年前に参加国が分かると、質の高い準備をすることが可能になると思っている。

SWY WAVE #2 南米 基調講演より

参加国の選考について。頻繁に参加国に選ばれる国もあれば、そうでない国もあるが、参加国を選ぶ際に、「事後活動が活発な国かどうか」だけを基準にせず、もっと個々の活動も評価し、参加国を検討してもよいのではないか。例えば、南アフリカでは大都市であるケープタウンと、郊外にある私の出身地は、車で16時間ほど離れている。このように、国によっては過去の参加青年が集まって組織として事後活動を実施するのが困難な場合もある。しかし、組織としての活動は難しくても、個人として素晴らしい活動をしている青年はたくさんいる。必ずしも1か国から12名の参加青年でなくとも、優秀な人材がいれば国を代表するのは2、3名でもいいのではないか。船上で他国の参加青年と一緒に新たなグループを組んで活動するため、組織やグループとしてではなく、一人一人の素質や適性にも目を向けて参加者の選考、あるいは参加国の決定をしてはどうだろうか。

SWY WAVE #3 アフリカ 基調講演より

事業の既参加青年の活用

過去の参加青年が事業に戻ってこられるようなプラットフォームづくりを提案したい。過去の参加青年であれば事業のこともよく理解しているし、現役の参加青年の刺激になるような活動をしている人もたくさんいる。例えばコース・ディスカッションのファシリテーターとして過去の参加青年を積極的に採用することで、現役の参加青年にも「将来的に継続して事業に関わることができる」という可能性を示すことができる。専門的な知識が必要な分野であれば外部有識者を採用するといったバランスも大事だが、できる限り多くの既参加青年を採用する枠があることが大切だと考える。

SWY WAVE #3 アフリカ 基調講演より

過去の参加青年が管理部員（運営スタッフ）として乗船する機会を与えることで、より良い事業にしていくことができる。既参加青年の中には、「世界青年の船」事業の管理部やサポートチームの一員として事業に貢献したいと思っている人たちも多くいるはず。今後の事業に新しい風を吹き込むような創造性が期待できる。

SWY WAVE #4 中東 基調講演より

事業の前後のフォローアップの拡充

「世界青年の船」事業の魅力は船の上に自分たちだけの「世界の縮図」をつくれるところにあると思う。船の上では、国や言葉の違い関係なく交流し、その空間が現実世界との繋がりがないという意味では、テクノロジーは最低限あれば十分である。それよりも、参加者が船の上で一堂に会して、交流し、互いに学び合う機会が与えられるということに大きな価値がある。

一方、事業の前後においては、テクノロジーを活用することができる。事業が始まる前には、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他国の参加青年との交流を深めておくことができる。事前に参加青年同士の距離が縮まることで、実際の事業が開始した時に、より良い交流の実現に繋がるのではないか。また、事業終了後はテクノロジーを活用して、船の上で議論した社会貢献活動などへの取り組みをフォローすることができる。船で培った異文化理解や相互理解を継続することができる。

SWY WAVE #5 欧州 基調講演より

「世界青年の船」事業を紹介する写真やビデオを見ていると、とても楽しい時間を過ごしているように思えるかもしれないが、カナダの代表青年は、事業に参加するまでの準備に3か月ほど費やし、事業の開始前にも、終了後にも、やらなければならない課題や研修が多く用意されている。実際参加してみて、船の上での新しい環境に対応できない参加青年が多かったように感じる。例年、途中で精神的・身体的な健康上の問題で途中で辞退してしまう青年がいることも事実。すべての参加青年がプログラムを最後までやり遂げるためには、精神的・身体的な健康面のサポートを強化することが重要だと考える。日本参加青年の多くが英語漬けの環境に苦戦しているということも指摘しておきたい。言葉の壁がディスカッションや異文化交流の妨げになるべきではないと考える。以上の点から、「世界青年の船」事業では、参加青年のためにもっと入念な準備をすることが求められていると思う。

SWY WAVE #6 北米・中米 基調講演より